

○議長（石橋英和君） 17番 松本君の一般質問は終わりました。

順番18、18番 井上君。

〔18番（井上勝彦君）登壇〕

○18番（井上勝彦君） 皆さん、こんにちは。

私も、議長をおろさせていただいて約1年久しぶりの一般質問でございますので、皆さん方に聞き苦しい点もあるかと思いますが、あと1時間。3日間、17名の同僚議員が橋本市の市民の幸せのためにということで、けんがくがく、当局との質問がありまして、私も深く勉強をさせていただいております。そこで、同僚の議員に負けないようにしっかりと質問をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

議長の許可を得ましたので、一般質問をさせていただきます。

私は、今回は新市長に問うということで、一般質問させていただきたいと思っております。

まずはじめに、新しく市長になられました平木新市長には、心より改めてお祝いを申し上げます。本当におめでとうございます。橋本市民の幸せと公共の福祉のため、負託に答えていただけることと思っておりますが、今後4年間、市民の皆さんが新市長のかじ取りに期待を寄せていることと思っております。そこで、今回下記の9項目について質問をしたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

まず、質問に入る前に、私の考えということをお述べたいと思っております。10番、11番、14番、22番の同僚議員と重なることもあるかと思っておりますが、できるだけ簡潔に、方向を変えて質問したいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

まず、マスコミは連日のように国内外の出来事を報道しております。我が国も含め、領土領海問題を中心に話題は絶えません。他方地球上の人口は1年間に1億人増加していますが、我が国だけが著しく人口減少が起これば大変不安定な状況が日に日に深刻化しております。最近、新聞テレビ等のマスコミ報道から改めて再認識した問題をこの機会に、時間の関係上、アバウトではございますが、重要かつ近々の課題として冒頭で触れておきたいと思っております。

昔は、まちづくりは人づくりという考え方が、今主流となり、それは当然のこととして私もそのような考え方を持っております。さて、ようやくにして国は、経済成長戦略の一環として、日本創生会議・人口減少問題検討分科会というものを11名のメンバーで立ち上げ、このほど基本方針がまとめ上げられ、発表いたしました。それによりますと、現在、合計特殊出生率1.34がこのまま改善されず人口推移すれば、約320年で日本が消えると、その可能性が高いと認識しており、はたまた、全国の市区町村が約1,800ありますけれども、2040年、すなわち今から26年後には、その半数近くのまちが、896が消えるという可能性も高いと記されており、また、1995年以降に生まれた男女の結婚数は、現在の5分の1に減るとも指摘されていることに私も驚いております。

しかし、今驚いている場合ではない、強く思いをいたし、その主な要因と対策を講じなければ橋本市が危ないと実感しております。橋本市民の今後の人口の推移はどうなるのだろうか。合計特殊出生率とは別に、私なりに橋

本市の今後の人口動態の推移を考えてみました。ここ数年間、毎年、橋本市民が約ではございますけども 500 人減少しております。赤ちゃんは年間 350 人程度生まれておりますが、亡くなる方が 600 人を超し、社会人となった学生は大阪や東京へと出ていくことで人口は年々減少の一途をたどっております。つまりこのまま人口が推移すると、あと 134 年でこの橋本市が日本から消えてしまう、極めて悲観的な数字が見えてきております。

筑波大学の鬼頭教授が、人口減少の主な原因、一つは核家族化、二つは女性の社会進出三つ目には晩婚、非婚化、四つ目には子育て支援不足、以上、四つの視点が重要であり、その対策が必要だと指摘されております。とりわけ急いで、私たちは組織的、意識的、計画的系統立てた組織の立ち上げが重要と考えます。専門家らを中心に、やる気のある関係各職員や市民の力を結集してプロジェクトチームを立ち上げ、こうした人口減少が私たちの未来に何をもたらすのかを、問題意識を共有化し、また、その危機意識を力にしなければ、橋本の未来が危ないということで、留意することは、決して慌てず、徐々であってもしかし、確実に進むことを心がけて取り組む姿勢が大切であると考えております。

かつて、今から数十年前、乳児死亡率日本一の村がありました。岩手県沢内村、当時、深澤村長が、「わしらがやらねば誰がやる、国は後からついてくる」と言って、強靱な意思と行動力で見事村を建て直しました。村の1年間の予算の半額を投資して、無医村の村をインフラ整備を行い、医師らも常勤させ、その数年後には乳幼児死亡率日本一の汚名を返上いたしました。この村は、日本一子どもたちが安心して暮らし、育つ村につくりかえ日本一乳幼児死亡者数ですか、ゼロに至る絶大なる効果をもたらしました。やがて国民

健康保険が黒字となり、なお保険料を値下げしても黒字となり、財政の健全化の役割を成し遂げた。全国各地の市町村からの視察団が後を絶たなかったことが、きのうのこのように記憶によみがえってきます。

私がちょうど、初めて当選した時期であったかと思いますが、現在、これに勝るとも劣らない町があります。今、私たちが最も関心のある課題に取り組んでいるまち、つまり、人口減少ストップ、健全財政化確立に成功したまちであります。島根県海士町でございます。「役場は住民総合サービス会社」、「ないものはない」、日本海の島根半島沖合約 60 キロに浮かぶ隠岐諸島であります。その中の島の一つであります。ここにはコンビニエンスストアがない、ショッピングモールもない本土から船で二、三時間かかる、離島の暮らしは都市に比べ確かに便利ではない。それにもかかわらず、人口 2,400 人のうち、島外から移住してきた人は1割に及び、その多くが20代から40代の働き盛り、少子化で統廃合寸前だった高校にも、全国から生徒が入学し、2012年度から異例の学級増となっております。現在、全国から視察が絶えない自治体となっておりますが、10年前までは、財政破綻や過疎化の危機に瀕し、島が消える寸前だった。その窮地をどのように脱したのかということでもあります。時間の具合上、詳しくはホームページでリサーチしていただけたらと思います。私はこれは持っておりますけれども、市長、これ読んでおりますと、長いんでございますので、またリサーチしていただけたらありがたいと思います。

先ほど述べたプロジェクトチーム立ち上げるにあたって、やる気のある職員を3カ月程度、島根県の海士町へ視察研修として派遣されてはいかがでしょう。また、近くでは、九度山町、岡本町長の存在がおもしろい。お

もしろいとは、我々に大きな影響力を持っているマスメディアの媒体を、観光力アップの道具として遺憾なくその力を発揮する岡本町長のセンスと感性が、つまり時代を読む力をおもしろいのであります。というのは、きのうも同僚議員がお話ししておりましたが、NHK大河ドラマに新企画として、「真田丸」が決まり、そのロケ地の一部として、九度山町が選ばれました。聞くところによりますと岡本町長が熱心にNHKに働きかけ、ちなみに3年をかけて82万の署名を集め、そして、これが決まったということであります。

また、橋本出身の方が滋賀県でプリンのお店を出して大ヒットいたしました。そのお店を九度山町に誘致し、若い女性をターゲットに観光力のアップを企画しているそうであります。また、道の駅もこのほどつくりました。また、私がある会合で一緒になったときに、地元国会議員に対し、本気で和歌山県の活性化を図るならば、阪和道路を無料化するようにと叱咤激励をしている姿を直接目にいたしました。この熱意はほんまもんやなど感動さえ覚えました。

過去、現在もその成功したまちづくりの共通した秘訣は何だったのだろうか。それは言うまでもなく、明々白々であります。認識を深める意味合いで簡潔に述べておきますが、人が人をつくると申しますが、皆から慕われ信頼され、愛され、人情豊かであり、強靱な意思を持ち合わせた人格者、すなわちリーダーの大きな存在があったから成し遂げたと確信しております。こうした観点から、使命を果たす頂点に立つ人が重要であります。重責を担うこととなりますが、当然、私たち議会議員の責を果たすべく、最善の努力は惜しみません。

以上、るる申し上げましたが、平木新市長がおもしろい、魅力あふれる逸材になられる

お方と考へ、ここに人口減少問題と経済発展のリーダーとして、また新しいまちづくりのリーダーとして、平木新市長のご見識とご決意のほど、改めてお聞かせいただければと思います。

そこで、今回、下記項目について質問をいたします。

一つは、橋本市のまちづくりについて、どのように進めていこうと考えているのか。

二つ目には、市民の代表である市議会、議員との対応についてどのように考えておられるのか。

三つ目は、市職員とのコミュニケーションを図るため、どのような考へを持っておられるのか。

今後、橋本市において少子高齢化が急速に進んでくるが、中長期的にどのような展望を持って取り組んでいくのか、お考へをお聞きします。

五つ目には、地域経済を活性化させるため特に地場産業、地元業者に対する取り組みについて、どのように考へておられるか。

商工観光について、新市長の熱い思いをお聞かせ願いたい。

教育・文化についての考へにつきましてもお聞きしたいと思ひます。

前市長の取り組んできた市政についての成果、また反省ではございませんが、やり残したことについての新市長のコメントをお聞きいたします。

九つ目には、橋本市の負の遺産である、税外債権の滞納についての今後の取り組みについてお聞きをいたします。

以上、九つの項目に質問をさせていただきますので、壇上での質問はこれにとどめます。

○議長（石橋英和君） 18番 井上君の新市長の市政のかじ取りに関する質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君） 18番 井上議員の質問
にお答えをいたします。

ただ今、18番議員からお祝いと励ましの言葉をいただき、また、今後4年間市民の皆さんの負託に応えるべく、しっかりと市政運営をすることが私に課せられた大きな使命であり、身の引き締まる思いであります。

市長就任から2カ月が経過しましたが、改めて職務の重大さを真摯に受けとめているところでございます。私の政治スローガンである「市民の最大多数の最大幸福の実現」のため、橋本市を全国・海外へ売り出し、市民の皆さまと元気な橋本市の実現をめざす決意でございます。

まず、1点目の橋本市のまちづくりの進め方については、14番議員への答弁の中でお答えした六つの政策を着実に推進することにより、「住んでよかった」「住みたくなる」を実感できる、そんな元気なまち橋本市の実現に向け取り組んでまいります。

次に、2点目の市議会、議員との対応については、二代表制のもと、市議会と市長は健全な緊張関係を保持しつつ、お互いの立場で意見を出し合い、結果として市民の皆さまの負託に応えていくことが重要であると考えており、市議会、議員の皆さまには今後とも市政発展のために、ご協力をお願いしたいと思います。

次に、3点目の市職員とのコミュニケーションについては、市長就任式や部長連絡調整会議において、行政はサービス業であることを常に忘れないこと、市民あつての行政であることを常に念頭に置くこと、来客者を優先する、また、苦情の発生しない業務であるよう細心の注意をもって行うことなど、私が考える基本的な職員像を示したところであります。

す。

また、行政事務を遂行していく上で、自ら考え、それを提案し、自ら行動できる職員を育てていきたいと考えています。4月に行った新規採用職員研修会においても、私は新規職員に対して、今年1年間は市長室へ自由に入出入りすることができる権限を与えました。まだ誰も来てくれません。また、ここ数年、組織に活力を吹き込む若手職員の採用が進みともすれば前例踏襲型の行政事務に対し、新しい感覚での提案や業務改善を求めているところであります。また、職員の専門性を高めていくことも重要であり、知識・技術の継承も含め、人事異動に反映させていきたいと考えています。もとより行政の推進にあたっては、私と全職員が一丸となり力を合わせるものが肝要であると考えており、今後ともさまざまな機会を捉えて職員との意思の疎通を図っていききたいと考えています。

次に、4点目の少子高齢化に対する中期・長期的な展望については、7番議員の質問に対する答弁の中でもお答えしましたが、人口の減少は、生産力の低下や地域コミュニティの衰退など、まちの活力が低下するとともに市民税など市の主な財源が減少することにつながります。このような人口減少問題は本市だけのものではありませんが、地域資源を生かし、魅力を向上させ、人や企業に選ばれる元気なまちづくりを、市民の皆さま、企業の皆さま、市議会の皆さまとともに連携しながらオール橋本として取り組みを行ってまいります。

その上で、中期的な取り組みとしては、普通交付税が段階的に削減される状況を踏まえながら、私の六つの重要政策を着実に推進していきたいと考えています。また、長期的な展望とそれに向けての対策については、人口減少傾向が避けられない中、平成30年度から

の10年間の次期総合計画の策定を、平成 28年度から始める予定であり、今後、市民の皆さま方や議員の皆さま方の意見・ご提案をいただきながら、長期的展望に見合った施策を講じる計画といたします。

次に、5点目の地域経済を活性化させるための地場産業、地元業者に対する取り組みについて、お答えをします。

「広報はしもと」6月号に掲載したとおり本市には伝統的工芸品に指定された紀州へら竿や国内シェアの大半を占めるパイル織物など、高い技術を持った特産品があります。

しかし、パイル織物については、最終製品ではなく繊維素材（生地）を製造していることから、製造企業名や産地名が市場や社会に出にくい状況にあります。今後は、橋本オリジナルの最終商品、新商品を開発し、橋本ブランドとして、いわゆる川上から川下までの事業展開を進めていく必要があると考えています。

そのために、地場産業振興センターを活用し、関係団体・企業に参加を働きかけ、民間・行政が一体となったチーム橋本として、橋本市を全国・海外へ売り出していくための拠点づくりを考えているところです。

また、（仮称）地域振興基金をつくり、意欲のある農業者・企業等の支援を行い、新産業の創出、新商品の開発、地場製品のブランド化に取り組み、県、商工団体等と連携し、販路開拓に取り組んでいきます。

次に、6点目の商工観光について、お答えします。

議員もご承知のとおり、ここ数年、紀伊山地の霊場と参詣道の世界遺産登録 10周年、高野山開創 1200年記念大法会、紀の国わかやま国体といったビッグイベントがあり、本市にとっても観光振興のまたとないチャンスを迎えます。

そこで今回、この好機にどのようにかかわっていくのか、また、イベント後の持続可能な観光客誘致をどう進めていくのか等について、橋本市に關係する各種機関の皆さまと行政が一体となって、はしもと観光戦略協議会を立ち上げることにいたしました。

既に去る5月28日に準備会を開催し、この協議会の趣旨をご理解いただいています。来る7月2日には、設立総会の開催を予定しています。

観光振興については、あくまで民間主導でアイデアを出してもらい、必要とあらば行政がこれを予算化していくといった形をとっていきたいと考えています。

次に、7点目の教育・文化の振興についてですが、まず教育については、確かな学力と生きる力を持った心豊かな子どもの育成を目標としたいと考えています。そして、いじめのない学校づくりや不登校をはじめとする子どもたちが抱える諸問題の対策を充実させるとともに、学力・体力向上への取り組みを進め、特色ある学校づくりに取り組んでいきます。

自分と他人の人権に敏感であること、命を大切にできること、心をこめたあいさつができること、仲間と協力できることなどを大切にしたい教育をしていく必要があると考えています。

このためには、学校だけの頑張りでは限界があると思います。幸い、我が橋本市には、子どもたちや学校を応援してあげたいと考えてくださる多くの地域の方々がおられます。

スポーツクラブをボランティアで熱心に指導してくださる方々、登下校の安全を見守ってくださる方々、イベントにボランティアスタッフとして参画してくださる方々など多くの地域の皆さんのお力もお借りし、地域・学校・家庭が連携を深めながら、心豊かな子ども

もたちを育てていきたいと考えています。

また、私が進めたいと考えている土曜授業土曜講座についても、実施の方法等について教育委員会に検討を指示しているところです。

次に文化について、橋本市には国指定重要文化財の利生護国寺、高野口小学校をはじめとする文化遺産や、偉大な功績を残したオリンピック金メダリストの前畑秀子さん、古川勝さん、数学者の岡潔博士など多くの偉人がおられます。これらの文化遺産、偉人の功績等を後世にしっかりと継承し、橋本市の魅力の一つとして活用に努めてまいります。

次に、8点目の、前市長の市政についての成果等に係るコメントについては、木下前市長は、新市発足後の行政機能の一元化をはじめ、企業誘致、子育て支援、循環型社会を見据えた環境整備、健康長寿社会実現のための福祉施策、安全安心のためのインフラ整備と消防力の強化、教育環境の充実などに力を注ぎ、大きな成果を上げられました。これら前市長の偉大な業績に対し、改めて深甚の敬意を表するとともに、その市政の継承とさらなる改革に取り組んでいく所存であります。

最後に、9点目の負の遺産である税外債権回収への取り組みについては、平成28年4月に債権管理に関する特別な組織を期間限定で設置し、主に税外債権の回収に集中的に取り組んでいきたいと考えています。今年度、債権管理に精通した1名の嘱託職員を雇用し、債権管理条例の制定に向け取り組むとともに弁護士による専門的な研修会を実施し、職員の債権管理能力及び債権回収意識のさらなる向上を図っていきたいと考えています。

以上、議員おただしの9点について、私の考えをご答弁させていただきました。議員各位のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（石橋英和君） 18番 井上君、再質問

ありますか。

18番 井上君。

○18番（井上勝彦君） 新市長の考え方、きのう、おとといから聞かせていただきまして、これからしっかりと、今のこの公約を守っていただき、橋本市民の幸せのために、行政を実行力をもってやっていただきたいと思えます。そこで、私は橋本市のまちづくりについて聞かせていただきました。るる聞かせていただきましたが、第1番目に、新市長が掲げております行財政改革、これを一層進めて、歳入の確保と歳出の削減に努め、財政の健全化を進めると、第1番目に出していただいております。そこで、この中で、スクラップアンドビルドの取り組みを進めていくと。このスクラップの中でどういうことを考えておられるのか、どれから手がけていくのかということをお聞きしたいと思います。

それは、全体的に私の言いたいのは、かつて、8年間私が言い放してきたわけなんですけれども、まだまだ実行に移していただけない、こういう問題が何点かあるわけでございます。そこで、行財政改革をしていく中で、一つ目は、まず広域事業、これが八つあると思いますが、この八つの広域事業の一本化を一日も早くめざすべきだということでこれは私が一貫してこれを述べておるわけでございますが、もう一つ前向いて行っていないと。それから、その中でも伊都消防との合併、これは、なぜそれを申しますかといえますと、同僚議員も高野口、橋本という、こういう壁をやっぱり一日も早く取り除くという意味も含めまして、伊都消防と橋本消防が、今回も人員増で出ておりますけれども、高野口の消防団が橋本の安全安心という中で、高野口の消防団が橋本にやはり助けに来れない火災が起きても助けに来れない、それから、橋本の消防団が高野口へ助けに来れない、こ

ういう現状が、このままでいいんであろうかと。ほんでに、私は議長当時、平木県議会議員の当時、お世話になったわけですけども、このデジタル化に向けてまず一本化していくためにということで、我々議員も含めて、総務委員長も含めて、一緒にこの伊都橋本の議長会でお話をし、そして、デジタル化が一本化したわけです。高野山まで行ったと思いますが。

そういうことで、一日も早く、平成 28年度ですけども実施するのは、それを一日も早くやっていただきたい。というのは、住民とのやはり、安全安心の中で、お互いに機能を発揮できないという、それから、予算面においても二重行政、行財政改革と言われるんなら伊都署へ今1億 8,000 万円出ていますけども、橋本市とで、結局、消防行政そのものが二重行政になっている。これはやはり一日も早く一本化するべきだということで私をご提案をしたい。

それから、三つ目は、きのうも同僚議員、中本議員でしたか、質問に立っておられましたが、この古い建物と、それからその土地、これの有効利用、これはやはり一日も早く、数字的に私はここはとは言いませんけれども相当数橋本市にはあるわけで、これを有効活用をいち早くやっぱり実行に移していただきたいということが三つ目であります。

それから四つ目には、教育委員会との絡みもありますけれども、児童館の要するに一本化。この児童館というのは、平木市長もご存じやと思いますけれども、これは当時、高野口と合併のときには、高野口の児童館2館はもう閉館しておりました。しかし、橋本市の関係もあってということで、また再度、平成18年度に4館あけたわけですけども、これを学童と一本化をして、一日も早く子どもの格差をなくしていく。児童館は無料ですけども

学童はお金がかかると。職員4館で12名おるわけですけども、これをやはり一日も早く改善をして、それを一本化しないと言うのならああいう危険な建物の中で子どもを児童館で学童のようなことをやるということは、もしそれをやらんと言うなら、要するにそれは改修するなり、要するに耐震もせないかん。相当数やっぱりお金もかかりますし、これは時代にふさわしくないと思いますので、やはりこの4館は閉館をして、そして、子どもたちが平等に学童ができるという、そういう方針転換をやっぱりすべきであると思いますのでそのこともご提案したいと思います。

それから、文化センターですね。文化センター4館あるわけですけども、きのうからも同僚議員が非常に質問に立っておりましたがやはり、この包括支援センターのような福祉部門に移して、そして、この民間に委託をしていくと。民間に委託をして、発展的解消と私はそう述べたいと思いますが、そういう形でやはり民間に委託して、できる施設については、それを十分活用していくというね。橋本市全体の中で福祉保健センターというのがありますね。その地域包括、地域で見守っていく、お年寄りや障がい者の人と一緒になって見守っていく、そういう集まりの施設という形で、やはり変えていくことが必要ではないかと。それは民間に委託しますと、そこは直営じゃないですから、これは一つの改革になるし、地域のためにもなるということでですね。これは既に隣保館運営法というのがあるんですけども、大阪府では半分はもう民間に委託してございます。そういうことも含めて、橋本市には、そういう施設は有効活用していくために、地域住民のためにもやっぱり方向転換をしていく、福祉部門に移していくという、こういうことをご提案したいとこのように思うわけでありまして。これは五つ

です。

私はほかの面については、前向きに、これもやる、あれもやるということは、今、新市長にお聞かせ願ったけど、難しい問題を五つご提案しました。この改革がやるかやらんかによって、橋本市がやはり、環境も良くなるし、そして、橋本市の子どもに対する平等性も生まれてくると。これを抜きに改革というのはないと私は思っております。そういうことで再度ご答弁願うんですが、もう固めて、九つ目の負の遺産のことも言うときですが、これは先ほど、新市長が平成 28年度から取り組むということでございます。私も今、監査に入っておりますので、厳しく指摘をしておかないかんですが、平成 24年度では、市長、当然ご存じやと思いますけれども、税外債権の回収金額、これは5億 3,228万 9,000円、平成24年度ですね。これは市税の収入未収額、5億 1,494万 8,000円よりも上回っておりますね。そういうことで、税の公平性という観点から、もらえるものはもらう。そして、もらえないもの、もう倒産して逃げておらない者はやはりおらない、だから取れない。そういうものはやっぱり国にちゃんと説明をしてそして、返さんでもええようにするというような、きちんとした税外債権回収については特にこの財政の逼迫しているときに、新しく新市長になられたので、難しい問題を私、六つ提案させてもらいましたが、これを解決するかせんか、実行に移すかで、橋本市がころっと変わりますので、そのことを再度、市長の思いというんですか、やるかやらんかのご決断をお聞きしたいと、このように思います。

○議長（石橋英和君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君） 井上議員の質問に対してお答えします。

一度にたくさん言われましたので、まず1

点目、スクラップアンドビルドというお話をいただきました。基本的には公共施設の整理統合廃止ということを中心に考えておりました、これからその整備計画等、整備したり、そういう計画を立ててまいりますので、その中でしっかりとした取り組みをしていきたいと思っておりますし、当然、児童館の一本化についてもそうですし、文化センターのあり方についても、しっかり議論をした上で、民間委託が適当なんか、児童館の場合でしたら、昭和48年につくった施設もあります。その安全性を考えて、ここを果たして地元用に渡してええのかという問題もありますし、渡してしまう、譲渡してしまいますと、逆に、コンクリートの寿命 65年と考えますと、あと 20年ぐらいいいかもたないというところを地元へ渡すことによって、地元で今度、そのときは壊してくださいよというふうなことがいいのかどうかという問題も、たくさん問題が出てくると思います。そういう面も、現在の、今言われた児童館、文化センター、全ての施設についても、そういうしっかり計画と議論をさせていただいた中で進めてまいりたいと思っております。

もう一つ、行政組織についても私、今、考えておりました、先ほど松本議員からもこども課の事務量の増加というお話がありました。私も、なかなか国体が終わるまで、その人員を割けないという、国体の最終終わるまでという問題もあるんですけども、そこにつきましても、私の基本的な考えの中で、職員の業務量をできるだけ減らしてやるということをまず念頭に置いています。一つは、組織のスリム化を図っていきたい。できるだけ、もう少し市の組織自体をコンパクトにして、その中で職員の皆さんに取り組んでいただくような形態をとっていくということに今考えています。もう一つは、先ほども言いましたけど

職員の専門化、プロ化ということもこれから取り組んでいかないといけないというふうに思っていて、特に建設関係とか水道関係の技術者がだんだん不足してきているという問題にも直面しています。そういう中で、そういう技術の継承というのをしっかりと取り組んでいくということで、そういう面でスクラップアンドビルドという考え方に立っておりますので、ご理解いただきたいと思えます。

もう一つ、広域事業の一本化の問題については、私も非常に重要な問題であるとは認識しております。まだ伊都消防の管理者会にも出席をしておりませんので、今までどういう議論をされてきたということは、詳細についてはちょっと知っておりませんので、一度、管理者会が近々に開かれることになっておりまして、デジタル化によって平成 28年度から指令が一本化されて進んでいくということでもありますので、その中で、橋本市だけがよければええというようなちょっと問題でもないかと思えますし、かつらぎ、九度山との負担の話もありますし、それについては広域消防の中でもう一度、管理者会の中で提案をさせていただいて、橋本市はこういうふうに考えていますというような、できたら消防行政を一本化にしたいという議論をこれからさせていただこうかなというふうに思っています。広域も昔はなかなか抜けられなかったんですけども、今は抜けられるような形にはなってきておるんですが、さまざまな問題もあるということも事実であると思えます。橋本がただ抜けるだけで済むかという問題もありますので、その辺はこれから十分に議論をさせていただきたいと思えますし、また、市議会のほうにも相談をしていきたいというふうに思っておりますので、広域の一本化については、この程度でお許しをいただきたいと思えます。

あと、土地の財産処分につきましては、来年から、そういうふうな専任の担当者をつけていきたいなというふうに、組織、どの程度の人数になるかというのはまだ考えている最中で、その未利用財産を、普通財産の処分というのを今後どういう形で進めていくかというのをそろそろ考えていく時期かなということも思っています。昨日の中本議員からの質問でもたくさんの場所のご提案もいただきましたので、その部分については、これから春までにどういう形で進めていくかということを取り組んでいきたい。恐らく管財課の中に設置をするのかなというふうには思うんですけども、要員の問題もありますし、どういう形で進めていくかというのは、今後、また改めてご相談をすると、また決まりましたらご報告をさせていただくということでご了解いただきたいと思えます。

もう一点、井上議員熱心に取り組まれています。これも、田中議員、松本議員も熱心に取り組まれていると思うんですけども、現状税外債権については、なかなか橋本市の中に専門家がない、法律を超えてやっていくというには、まだ非常に知識が不足しているという部分と、なかなかそこまでようやらんよというような、まだ意識的な問題もあろうかと思えます。5月でしたか、こういう税外債権の処理の経験のある方、嘱託職員で1名雇用されまして、今、企画経営室のほうで1名おられます。まず1人雇用しました。そして今後、弁護士を通じて、先ほども言いましたように、職員の研修というのでも進めていきますし、しっかりと改修という意味が絶対必要です。厳しい財政状況、先ほどから議員おただしのおりやと思えますので、そこについては組織をしっかりとつくって、それについて取り組んでいくという方向は持っておりますので、ぜひ、今後とも、いろんな議員

の皆さんからのご意見を頂戴したいなと思っております。

これでだいたい六つできたかなと思いますので、もしもれておりましたら、また指摘してください。

○議長（石橋英和君）18番 井上君。

○18番（井上勝彦君）市長の決意を改めて聞かせていただきまして、前向いて一步、二歩相当進んだなというように思います。

特に、市長がおっしゃったように、消防問題につきましては、市長も高野口、橋本を回っておられるので聞いておられると思いますけども、ただ、高野口の消防、火災が起きたときにいつもそういう話が出るわけですけども、町民としたら、同じ橋本市民であるのにもかかわらず、何で橋本市署が隣と隣、神野々と伏原、この間も火災起きたけども、要するに、そういうところへ、やはり隣同士であって、要するに伊都署が来なければ橋本が来れないと、橋本がまた高野口へ来れないとこういう歪んだ、同じ市内でおりながら、また、高野口の消防団も非常に機能を持っているわけですね。橋本も持っています。これを一つにすれば、もう和歌山県下一、以上、全国でも珍しいぐらいの機能を持っているという、私はそれだけ自負しておるわけですけども、災害とか、そういったときに、一番市民の安全安心、こういうものを守っていくためには、いち早くやっぱり合併をして、要するに話し合いをして、事情が事情ですから、それがやはり8年たった住民とのいさかいもここでやわらげるということはないけども、なるほどということにも進んでくると僕は思いますので、そういうことが常に、口に、市民としたら、行政間同士の広域、組合の内容はわかりませんわな、市民は。そやから、それは我々も頑張らないかんけども、今回、議長もおられるので、議長会の中でも広域に行か

れておりますので、市長と一緒にタッグを組んで、そして、この伊都橋本の消防、これをやはり、いち早く一本化を進めて、そして安心安全というところへ誠意的に動くことが大事であると思っておりますので、特にそのことについてはお願いというか、進めていってほしいというように思います。細かい点につきましては、各常任委員会がございますので、数字的には私は今回、この一般質問では挙げるべきでないと思っておりますので、各常任委員会のほうで、この詳細についてはまたけんけんがくがく議論をし、当局とお互いに力を合わせて、解決に向けて頑張っていかなければならないと、このように思っております。

一般質問でございますので、橋本市のまちづくりでどう考えているかということの中で質問をさせてもらっております。古い建物ゆえ、出しゃあ何ぼでもあるんやけど、資料として持っていますけども、これは各委員会の中で、また一緒になって考えていくということにしたいと思えます。

それから、市長に、私冒頭で述べましたけども、元気な海士町へ、できたらいっぺん行っていただいて、それでヒントを得るわけですね。向こうはブランド化して、要するに、三重牛とか伊賀牛とかって、いろいろブランドあるけども、隠岐牛というブランド牛やったり、生鮮魚類、これは僕は書類持っとなのやけども、生鮮魚類等々についても、1日がかつとつたやつが、直接瞬間冷凍というんかして、発送して、そしてブランド化をして、おいしい魚を即座に届けると、東京へでもどこでも。そういうふうないろいろな考えでもって町を活性化させたという、これが橋本市に何かそれがヒントにならんかいなということもありますので、職員なり、我々も行かないかんのですけども、そういうことで、橋本市のまちづくりについて、そういう進んだま

ちにもやっぱり積極的に行ってもろて、そして、みんなで共有していくと、いかに橋本市をこれから良いまちにしていくかということをして市長だけの考えじゃないですけども、市長はやっぱり殿さんですから、我々は、これはこうやるからおまえらついて来いというような形で、リーダー的な役割をぜひ果たしていただきたいということをご期待申し上げまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

職員にも質問をしたいんですが、きょうはやめさせていただいて、市長のお話を聞きましたので、誠に時間をとっていただきました

が、これで一般質問を終わらせていただきます。

本当にありがとうございました。

○議長（石橋英和君） 18番 井上君の一般質問は終わりました。

○議長（石橋英和君） これにて、一般質問を終結いたします。

以上で本日の日程は終わりました。

本日はこれにて散会いたします。

ご苦労さまでした。

（午後2時8分 散会）